

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／林 秀彦

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

豊かな教養と教育実践力をもった教員の養成にあたり、これまでの授業実践では、学生があらゆる課題に多角的に根気強くチャレンジできるような取組みを行ってきた。授業内容については、自らが考えて課題を解決できるように単に操作方法を学ぶ内容とならないようにしてきた。授業方法については、情報環境を学生が主体的に活用できるように授業方法を工夫してきた。また講義ではプレゼンテーションソフトを効果的に活用し、理解を促進させてきた。成績評価については、学習管理システムLMSの効果的な活用によって、課題解決に到る過程も含めて評価に反映できるようにしてきた。本年度の授業実践においても、これらを実践する授業計画によって実現していきたい。

2. 点検・評価

豊かな教養と教育実践力をもった教員の養成にあたり、これまでの授業実践では、学生があらゆる課題に多角的に根気強くチャレンジできるような取組みを行ってきた。授業内容については、自らが考えて課題を解決できるように単に操作方法を学ぶ内容とならないようにしてきた。授業方法については、情報環境を学生が主体的に活用できるように授業方法を工夫してきた。また講義ではプレゼンテーションソフトを効果的に活用し、理解を促進させてきた。成績評価については、学習管理システムLMSの効果的な活用によって、課題解決に到る過程も含めて評価に反映できるようにしてきた。本年度の授業実践においても、これらを実践するように授業計画を立て実現することができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

本年度は、教育・学生生活支援に関わる情報環境の維持・管理をセンタースタッフ等と協力して円滑に進めることで、学生が主体的に活動しやすいようにサポートする。学術情報コンピュータシステムの安定稼働をはじめ、種々のシステムがあるので、それらの改善事項に対して適切な対応を協力して進めていきたい。

2. 点検・評価

本年度は、教育・学生生活支援に関わる情報環境の維持・管理をセンタースタッフ等と協力して円滑に進めることで、学生が主体的に活動しやすいようにサポートしてきた。学術情報コンピュータシステムの安定稼働をはじめ、種々のシステムがあるので、それらの改善事項に対して適切な対応を協力して進めることができた。
また、本年度は連合大学院の教員資格審査において主指導教員資格者となることができた。そして、博士候補認定試験や学位審査に参加させていただくことができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

本年度は、これまでの研究成果の一部をまとめ、英文論文誌や英文著書として国際的に公表していきたい。マルチタッチシステムに関する研究については英文論文誌に投稿し、グローバル化における「ものづくり」に関する研究については英文著書として出版していきたい。

2. 点検・評価

本年度は、これまでの研究成果の一部をまとめ、英文論文誌や英文著書として国際的に公表してきた。マルチタッチシステムに関する研究については英文論文誌に採択され、グローバル化における「ものづくり」に関する研究については英文著書として出版することができた。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営においては情報の基盤を支える情報基盤センターの果たす役割を認識し、業務が効果的に進められるように、しっかりサポートすることで、間接的に本学の運営に貢献する。また、学部教務委員、第59回中国・四国地区大学教育研究会に伴うプロジェクト会議委員等の業務も円滑に進めていきたい。

2. 点検・評価

大学運営においては情報の基盤を支える情報基盤センターの果たす役割を認識し、業務が効果的に進められるように、しっかりサポートすることで、間接的に本学の運営に貢献した。また、学部教務委員、第59回中国・四国地区大学教育研究会に伴うプロジェクト会議委員等の業務も円滑に進めることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校園の情報環境サポートをセンタースタッフと協力することで連携を深める。(附属学校)
- ②大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い, 社会に貢献する。(社会連携)
- ③留学生(研究生)の指導や交流を通して実践的な国際交流を図る。(国際交流)

2. 点検・評価

- ・附属学校園の情報環境サポートをセンタースタッフと協力することで連携を深めることができた。(附属学校)
- ・大学と地域・社会, とくに教員インターンシップでの学校訪問の際などに, 交流・連携を積極的に行うことができた。(社会連携)
- ・留学生(研究生)の指導や交流を通して実践的な国際交流を図ることができた。(国際交流)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)